

双極性障害を抱えて地域で生きること

双極性障害(躁うつ病)は、単に気分が明るくなったり、沈みこんだりするだけの病気ではありません。この病気は失うものが小さくありません。家族、仕事、財産、等々、最悪の場合は命まで失うこともあります。失うものを最小限にして地域で暮らすにはどうすればよいでしょうか。双極性障害当事者の体験談から考えていきたいと思います。

日 程 平成31年2月23日(土)2時~(1時間程度)

場 所 コミュニティカフェゆい(平野区平野本町4-14-19)

ゆいについては→



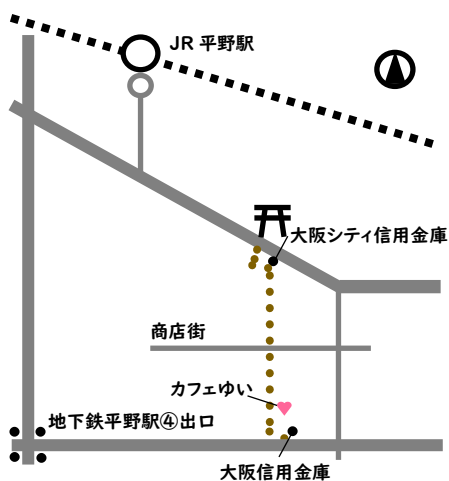
参加費 無料

申し込みはNPO 法人オリーブひらの 森本まで
電話 06-6792-0092 info@olive-hirano.org

話題提供者 おおはしきとこ
大橋聖子

1972年生まれ

高校在学中、発病する。高校を中退。入退院を繰り返す。2008年地域活動支援センターオリーブにつながり、医療機関と家との往復の生活から、「地域と暮らすこと」が生きてゆくテーマとなる。現在、大阪精神障がい者連絡会(ぼちぼちクラブ)わかちあい電話担当者。当事者講師派遣事業出前はあと講師。平野区地域自立支援協議会障がい当事者部会委員。



NPO 法人オリーブひらの

大阪市平野区平野元町5-2 <http://www.olive-hirano.org>

大阪市ボランティア活動振興基金助成事業

